

エコアクション21

環境経営レポート

(対象期間： 2019年 10月 ~ 2020年 9月)

1. 環境経営方針	3
2. E A 2 1 実施体制	4
3. 事業概要	5
4. 環境負荷目標と実績	6
4-1. 環境負荷目標	6
4-2. 過去3年間の主な環境負荷の実績比較	7
4-3. 環境経営目標の達成状況	7
5. 環境負荷の推移と評価	8
6. 環境経営計画及び取組結果とその評価	10
7. 次年度の環境経営計画	11
8. 環境関連法規等の遵守状況の確認	12
8-1-1. 環境関連法規	12
8-1-2. 環境関連法規	12
8-1-3. 環境関連法規	13
8-2. 違反・訴訟等	13
9. 代表者による全体の評価と見直し・指示	14

株式会社ユーテムプレジジョン 東北工場

環境レポート発行日：2020年10月31日

1. 環境経営方針

環境経営方針

【環境経営方針】

私たちの事業活動である工具の製造・販売が、希少金属資源およびエネルギーを消費し、化学物質を環境に排出していることを全従業員が認識するとともに下記の行動指針を定め、環境保護・環境保全活動に取り組みます。

【行動指針】

- ① 二酸化炭素排出量の削減
生産工程及び管理業務の効率向上・不良削減に努めCO²排出量削減を図ります。
- ② 省エネ・省資源・リサイクル化の推進
資源の分別を徹底し、リサイクル化を推進します。
- ③ 水使用量・排水量の削減
水使用量・排出量の削減目標を設定し、水資源の保全を実施します。
(ろ過装置を活用し、排水の再利用を推進します。)
- ④ 化学物質使用量の削減
化学物質の危険性を周知し、適切な管理に努めます。
また拡散防止の為、事故緊急時の訓練も実施します。
- ⑤ グリーン調達の促進
環境配慮製品の使用を積極的に行い、社会共存を図ります。
- ⑥ 事業活動にあたり、環境関連法規制を遵守します。
- ⑦ 製造工程の無駄を排除し、新たな規範を構築します。
- ⑧ 環境経営システムを運用し、環境活動レポートとしてとりまとめ対外的に明示します。

制定日：2012年07月1日

改定日：2015年11月1日

改定日：2020年06月1日

株式会社ユーテムプレジジョン東北工場

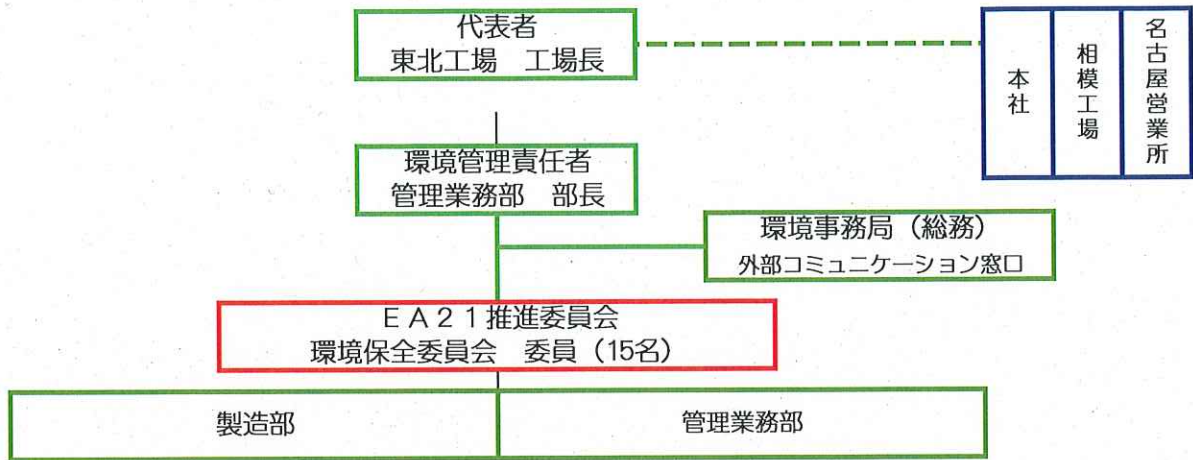
工場長 宇那田 裕



SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS



2. EA21実施体制



	役割・責任・権限
代表者	<ul style="list-style-type: none"> 環境経営に関する統括責任 環境経営システムの実施に必要な人、設備、費用、時間、技能、技術者を準備 環境管理責任者を任命 環境方針の策定・見直し及び全従業員へ周知 環境目標、環境活動計画書を承認 効果的で必要十分な実施体制の構築及び全従業員への周知 代表者による全体の評価と見直しを実施 環境活動レポートの承認
環境管理責任者	<ul style="list-style-type: none"> 環境経営システムの構築、実施、管理 環境関連法規等の取りまとめ表を承認 環境目標、環境活動計画書を確認 環境活動の取組結果を代表者へ報告 環境活動レポートの承認
環境事務局	<ul style="list-style-type: none"> 環境管理責任者の補佐、EA21推進委員会の事務局 環境負荷の自己チェック及び環境への取り組みの自己チェックの実施 環境目標、環境活動計画書の取りまとめ 環境活動の実績集計 環境関連法規等取りまとめ表の作成及び最新版管理 環境関連法規等取りまとめ表に基づく遵守評価の実施 環境関連の外部コミュニケーションの窓口 環境活動レポートの作成、公開（事務所に備え付けと地域事務局への送付）
EA21推進委員会 (環境保全委員会)	<ul style="list-style-type: none"> 環境活動計画の審議 環境活動実績の確認・評価
部門担当者	<ul style="list-style-type: none"> 自部門における環境方針の周知 自部門の従業員に対する教育訓練の実施 自部門に関連する環境活動計画の実施及び達成状況の報告 自部門に必要な手順書の作成及び手順書による実施 自部門の想定される事故及び緊急事態への対応のための手順書作成・施行・訓練を実施、記録の作成 自部門の問題点の発見、是正、予防措置の実施
全従業員	<ul style="list-style-type: none"> 環境方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚 決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加

3. 事業概要

事業者名及び代表者

事業所：株式会社ユーテムプレジジョン
代表者：取締役社長 齋藤 晴司

所在地

本社：神奈川県座間市ひばりが丘4丁目21番1号
相模工場：神奈川県座間市ひばりが丘4丁目21番1号
東北工場：岩手県奥州市前沢向田2丁目8 (2008年認証取得) ←認定対象事業所
名古屋営業所：愛知県名古屋市中区栄3丁目7番13号
コスモ栄ビル 9階

事業内容

工具・治具の設計製造
スペシャルツール／ツーリング／保持具、クイックチェンジ方式／フライス工具／
標準品／金型部品／治具部品／電着品／セラミックの研磨加工等／全般の設計製作／
販売

環境管理責任者及び連絡先

【本社・相模工場・名古屋営業所】

環境管理責任者 相模工場 工場長 熊谷 修
E A 2 1 事務局 総務部 係長 稲見 聡
連絡先(電話) 046-251-8833

【東北工場】

環境管理責任者 管理業務部 部長 小野寺 朋美
E A 2 1 事務局 管理業務部 総務担当者
連絡先(電話) 0197-56-3825

←認定対象事業所

事業規模

【資本金】 8,800万円

	単位	2018	2019	2020
売上高	百万円	2,040	2,033	1,550
生産高	百万円	1,129	1,089	896

事業所	従業員数	延べ床面積	敷地面積
本社	32名	248 m ²	5,800 m ²
相模工場	30名	2,952 m ²	
名古屋営業所	4名	90 m ²	90 m ²
東北工場	100名	3,798 m ²	15,500 m ² ←認定対象事業所

事業年度

令和元年10月1日～令和2年9月30日

「エコアクション2.1」認定対象範囲の概要

平成25年3月 本社・相模工場・名古屋営業所認定済み
平成25年6月 全組織取得完了

【認定対象事業所】 東北工場
【環境レポート対象期間】 令和元年10月1日～令和2年9月30日
【環境レポート発行日】 2020年10月31日

4. 環境負荷目標と実績

目標設定項目 ※環境効果原単位 =環境負荷÷生産金額	単位	基準値 2019年 実績	CO2 換算係数	2020年	中期目標	
				目標	2021年 目標	2022年 目標
電力使用による 二酸化炭素排出量削減	削減率	基準値に対し		1.0%	2.0%	3.0%
	kg-CO2	932,815	東北電力	923,487	914,159	904,831
	原単位	8.60	0.521	8.50	8.40	8.30
	原単位比	100.0%		99.0%	99.0%	99.0%
自動車燃料使用による 二酸化炭素排出量削減	削減率	基準値に対し		1.0%	2.0%	3.0%
	kg-CO2	553	ガソリン	528	522	517
	原単位	0.0049	2.32	0.0048	0.0048	0.0047
	原単位比	100.0%		99.0%	99.0%	99.0%
灯油使用による 二酸化炭素排出量削減 ※令和22年までに全廃	削減率	基準値に対し		100.0%	100.0%	100.0%
	kg-CO2	0	灯油	0	0	0
	原単位	0.00	2.49	0.00	0.00	0.00
	原単位比	0.0%		100.0%	100.0%	100.0%
LPG使用による 二酸化炭素排出量削減 ※令和25年までに全廃	削減率	基準値に対し		100.0%	100.0%	100.0%
	kg-CO2	78	LPG	77	76	76
	原単位	0.00072	3.00	0.00071	0.00070	0.00069
	原単位比	100.0%		99.0%	99.0%	99.0%
エネルギー消費による 二酸化炭素排出量合計	削減率	基準値に対し		1.0%	2.0%	3.0%
	kg-CO2	993,426		924,092	914,757	902,423
	原単位	8.60		8.50	8.40	8.30
	原単位比	100.0%		99.0%	99.0%	99.0%
一般廃棄物排出量の削減	削減率	基準値に対し		100.0%	1.0%	1.0%
	kg	29,020		0	28,440	28,149
	原単位	0.27		0.26	0.27	0.27
	原単位比	100.0%		0.0%	99.0%	99.0%
産業廃棄物排出量の削減	削減率	基準値に対し		1.0%	1.0%	1.0%
	kg	79,910		79,111	79,103	79,095
	原単位	0.73		0.73	0.72	0.72
	原単位比	100.0%		99.0%	99.0%	99.0%
水道水使用量の削減	削減率	基準値に対し		1.0%	2.0%	3.0%
	m ³	1,354		1,340	1,327	1,313
	原単位	0.0124		0.0123	0.0122	0.0121
	原単位比	100.0%		99.0%	99.0%	99.0%
化学物質適正管理 (鋼材含有量除く) ※化学物質取扱無し	削減率	基準値に対し		100.0%	100.0%	100.0%
	kg	0.00		0.00	0.00	0.00
	原単位	0.00		0.00	0.00	0.00
	原単位比	0.0%		100.0%	100.0%	100.0%
不良率の削減	削減率	基準値に対し		1.0%	2.0%	3.0%
	万円	508		503	498	493
	原単位	0.0047		0.0046	0.0046	0.0045
	原単位比	100.0%		99.0%	99.0%	99.0%
グリーン購入比率の向上	件数	既存品切換え		年1件以上	年1件以上	年1件以上
環境配慮型事業活動① ゼロミッション推進	定性目標	廃棄物のリサイクル率 アップ/流通口改善		年1件以上 実施	年1件以上 実施	年1件以上 実施
環境配慮型事業活動② SDGsの実践	定性目標	社会課題への 対応・取組み		年1件以上 取組み	年1件以上 取組み	年1件以上 取組み

※ 二酸化炭素排出係数は東北電力実績の2019年度のCO2排出実績(調整後排出係数)を適用した。

※ 年度表記は弊社の10月～9月の会計年度と同一期間を適用した。

■ 4-2. 過去3年間の主な環境負荷の実績比較

項目	単位	使用量総量			環境原単位 (生産金額万円当り)		
		2018年	2019年	2020年	2018年	2019年	2020年
年間生産金額	万円	112,877	108,935	89,640	1,129	1,089	896
二酸化炭素排出量	kg-CO2	923,411	933,446	846,176	818	857	944
廃棄物排出量	kg	120,072	108,930	94,213	106.374	99.995	105.102
一般廃棄物排出量	kg	48,652	29,020	42,593	43.102	26.640	47.516
産業廃棄物排出量	kg	71,420	79,910	51,620	63.272	73.356	57.586
上水使用量	m³	1,550	1,354	1,220	1.4	1.2	1.4
総排水量	m³	1,483	1,354	1,220	1.3	1.2	1.4
化学物質使用量	kg	0	0	0	0.0	0.0	0.0

■ 4-3. 環境経営目標の達成状況

目標設定項目 ※環境効果原単位 =環境負荷÷生産金額	単位	基準値 2019年 実績	2020年			備考
			目標	実績	評価	
電力使用による 二酸化炭素排出量削減	削減率	基準値に対し	1.0%	-10.0%	×	10%の増加
	kg-CO2	932,815	923,487	845,427		コロナ禍による
	原単位	8.60	8.50	9.40		生産金額低下
	原単位比	100.0%	99.0%	110.0%		作業効果ダウン
自動車燃料使用による 二酸化炭素排出量削減	削減率	基準値に対し	1.0%	-11.0%	×	11%の増加
	kg-CO2	553	528	489		コロナ禍により
	原単位	0.0049	0.0048	0.0055		雇用調整取得等
	原単位比	100.0%	99.0%	111.0%		ルギョー緊急対応増
灯油使用による 二酸化炭素排出量削減	削減率	基準値に対し	100.0%	-	×	使用量ゼロ目標だが、
	kg-CO2	0	0	149		緊急用灯油の購入
	原単位	0.00	0.00	0.70		が影響し使用量が
	原単位比	0.0%	100.0%	-		増加した
LPG使用による 二酸化炭素排出量削減	削減率	基準値に対し	100.0%	-73.0%	×	73%の増加
	kg-CO2	78	77	111		厳冬の影響により
	原単位	0.00072	0.00071	0.00124		湯の使用が増えた
	原単位比	100.0%	99.0%	173.0%		
エネルギー消費による 二酸化炭素排出量合計	削減率	基準値に対し	1.0%	-10.0%	×	10%の増加
	kg-CO2	993,426	924,092	846,176		稀に見る豪雪・厳冬
	原単位	8.60	8.50	9.40		及びコロナ禍による
	原単位比	100.0%	99.0%	110.0%		生産体制の悪化有り
一般廃棄物排出量の削減	削減率	基準値に対し	1.0%	-77.8%	×	77.8%の増加
	kg	29,020	28,730	42,593		有価買取・リサイクルが
	原単位	0.27	0.26	0.48		増加し利益化出来た
	原単位比	100.0%	99.0%	177.8%		
産業廃棄物排出量の削減	削減率	基準値に対し	1.0%	21.0%	○	21%の削減
	kg	79,910	79,111	51,620		コロナ禍による減産
	原単位	0.73	0.73	0.58		が影響
	原単位比	100.0%	99.0%	79.0%		
水道水使用量の削減	削減率	基準値に対し	1.0%	-9.7%	×	9.7%の増加
	m³	1,354	1,340	1,220		研削液個別タンク
	原単位	0.0124	0.0123	0.0136		の運用が軌道に乗
	原単位比	100.0%	99.0%	109.7%		っている
化学物質適正管理 (鋼材含有量除く) ※対象化学物質取扱無し	削減率	基準値に対し	100.0%	100.0%	○	
	kg	0.00	0.00	0.00		
	原単位	0.00	0.00	0.00		
	原単位比	0.0%	0.0%	0.0000		
不良率の削減	削減率	基準値に対し	1.0%	-6.0%	×	6%の増加
	万円	508	503	442		生産金額が伸び悩
	原単位	0.0047	0.0046	0.0049		む中、不良発生は
	原単位比	100.0%	99.0%	106.0%		例年並みに発生
グリーン購入比率の向上	件数	既存品切換え	年1件以上	1件(タウ)	○	継続して購入の都度 切替を行う
環境配慮型事業活動① ゼロミッション推進	定性目標	廃棄物のリサイクル率 アップ/流通口改善	年1件以上 実施	1件 (水処理)	○	県ゼロミッション活用 事業の検討(水処理)
環境配慮型事業活動② SDGsの実践	定性目標	社会課題への 対応・取組み	年1件以上 取組み	1件 (紹介・周知)	○	委員会でのSDGs 取組み紹介・周知

5. 環境負荷の推移と評価

～EA21活動開始からの原単位実績推移～

平成18年3月EA21を認証登録して以来、様々な省エネ活動を実行して来た。

活動当初から従業員全員での細やかな省エネ実践活動を通じ、順調にエコ意識への転換ができた。

しかし、平成26年頃には活動のマナー化や省エネ策が尽き、新たな視点での活動が必要となった。

そこで、平成26年度から「総使用量目標管理」から「原単位目標管理」に変更し、エコな生産体制構築のため、向こう10年間の長期削減目標を設定した。

これ以降、こまめな省エネ活動共に、設備的な改善もスタートした。

主に、弊社エネルギー使用量の99%を占めていた省電力に力を入れ、照明のLED化、ヒートポンプ式インバータ付エアコンへの更新、高効率モーター採用、最新型変圧器への集約更新を実行した。

結果、固定的な環境負荷は軽減され、企業固定費も削減。環境にも自社にも大きな成果を上げ、有効なエコ活動となった。また、平成26年度設定の長期目標の殆どは令和元年までに達成された。

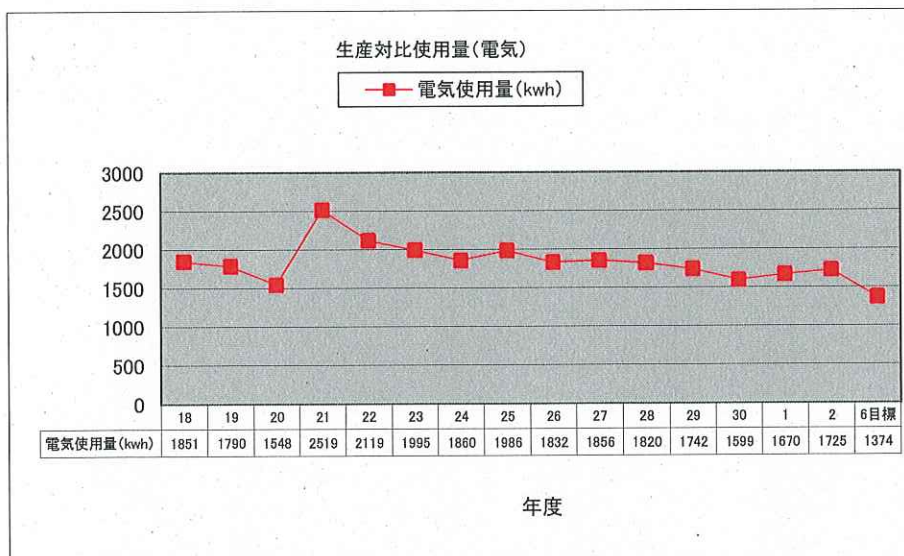
令和2年度、更に今後10年間のEA21活動の方向性を再検討。

SDGsを活用したエコ活動にシフト。持続可能な企業を目指し、地球温暖化防止に繋がる活動を意識。

そこで、使用量での目標管理に加え、二酸化炭素排出量削減の新・中長期及び単年度目標を再設定。令和2年度～令和11年度の10年間に毎年1%、累計で10%の削減目標を設定した。

基準年(値)は2019年(令和元年)の実績値とした。

様々なエコ活動をSDGsの17のゴールに当てはめ、これまでの実績を更に向上させながら社会課題の克服に向き合い、「経済性」「社会性」「環境性」を踏まえた活動へとランクアップする。

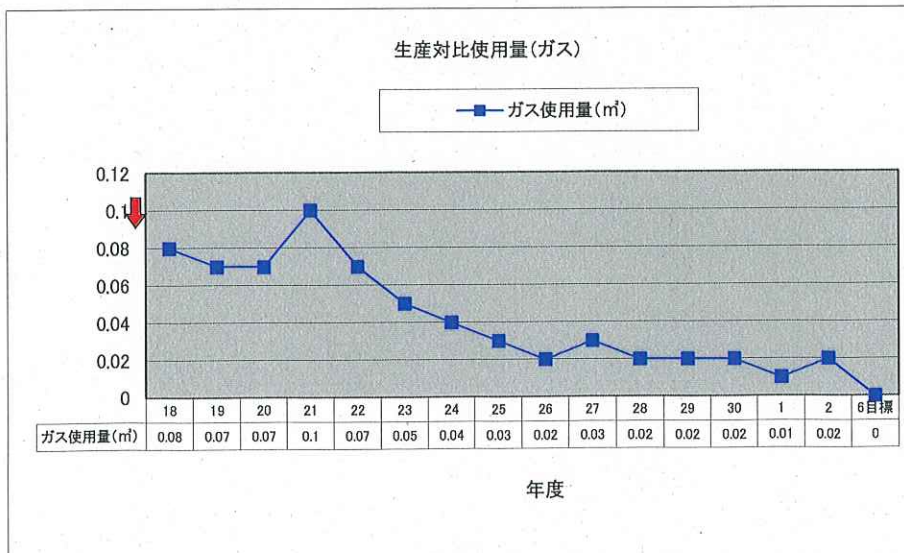


【電気】

電気年間使用量

H18年度 2,261,283kwh
R 2年度 1,622,701kwh
〈削減率28%〉

令和2年度はコロナ禍により生産の減産となった。原単位当りの電気使用量は若干増えたものの、電力の年間使用量は過去最大の削減となった。省エネ補助金を活用した設備投資(LED照明、空調、高効率モーター、変圧器等)が功を奏している。



【LPガス】

LPガス年間使用量

H18年度 103.0m³
R 2年度 17.9m³
〈〈削減率82.6%〉〉

ガス使用量は、使用量「ゼロ」を実現できる体制となった。令和2年度は、極寒となり温水を使用する頻度が高くなりガス使用量が増加。来年以降、電気温水器を検討し、全廃する見込み。

生産対比使用量(水道)

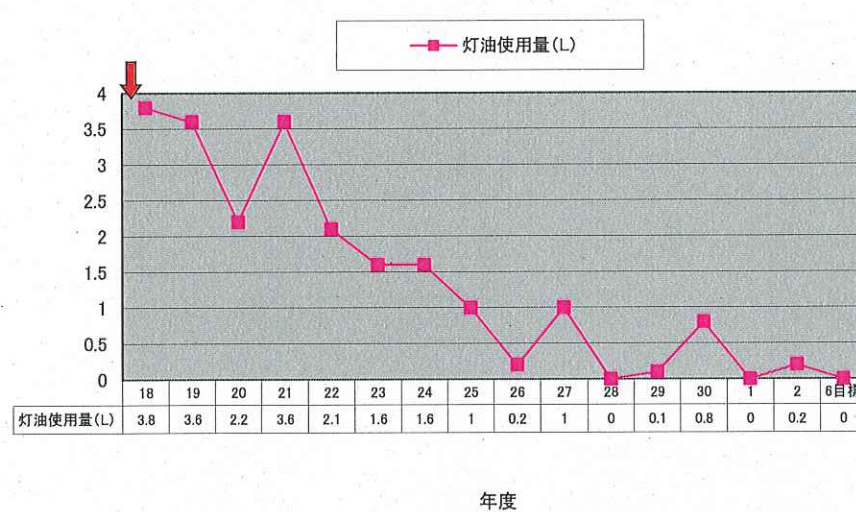


【水道】

水道年間使用量
 H18年度 1,899m³
 R 2年度 1,220m³
 ≪削減率35.8%≫

水道使用量の原単位推移は微妙に下降傾向にはある。こまめな節水や使用方法の改善は行われているが、削減率は伸び悩んでいる。来年度以降、岩手県ゼロエミッション推進事業補助金の採択を受け、水の再利用に取り組む予定。(廃アルカリ液の減圧蒸留再生水精製⇒再生水再利用) 大幅な削減が期待出来る。

生産対比使用量(灯油)



【灯油】

灯油年間使用量
 H18年度 639L
 R 2年度 100L
 (R1年はゼロ)
 ≪削減率84.4%≫

灯油使用量は使用量「ゼロ」を実現できる体制となった。令和2年度は、緊急用灯油の購入もあり、灯油の使用量が臨時的に増加した。暖房はエアコンのみとなっており、来年以降、灯油使用は全廃する見込み。

生産対比使用量(産業廃棄物)



【産業廃棄物】

≪リサイクル率≫
 H18年度 87.1%
 R2年度 98.9%

区分/年度	H18年度	R2年度
一般	31,570	29,020
産業	92,589	79,910
(内最終処分)	(15,989)	(1,180)
(最終処分割合)	12.9%	1.1%
合計	124,159	108,930

産業削減率	△12.3%
最終処分削減率	△92.6% (リサイクル)

産業廃棄物の年間総排出量も、原単位当りの排出量は年々削減されている。また、最終処分量は激減。社内ゼロエミッションが進み、殆どがリサイクルされるようになった。

6. 環境経営計画及び取組結果とその評価、次年度の取組内容

取り組み計画	環境目標	実績	取組結果とその評価		
			達成状況	次年度	評価及び次年度の取組内容
二酸化炭素排出量削減	8.50	9.40	×	継続	
電力の二酸化炭素排出量削減					
生産金額当たり原単位	8.50	9.40	×	継続	総使用量では削減されているが、原単位は増加している。総使用量；夏場に猛暑が続き、また、コロナ禍による生産調整も影響している。活動にマンネリ化の様子も有り、取組みの仕切り直しが必要。中長期目標及び半年度目標を新しく設定した。次年度以降改めて省電力への取組み方法の見直しが必要。
空調温度の適正化（冷暖房26℃）			○	継続	
デマンド警報時の電力遮断等抑制			○	継続	
こまめな節電と消灯			○	継続	
エアコン、集塵機、機械装置のフィルタ定期清掃			○	継続	
設備機械、OA機器等の待機時節電			○	継続	
クール、ウォームビズの実行			○	継続	
自動車燃料使用による二酸化炭素排出量削減					
生産金額当たり原単位	0.0048	0.0055	×	継続	総使用量では削減されているが、原単位は増加している。営業業務が一部東北工場に移管となり、営業車両として社用車の使用が増加。また、コロナ禍で緊急対応が求められ、持込み等車両を使用する事が増えた。公共機関利用等も検討する。
エコドライブの実践とステッカー取付			○	継続	
走行距離記録			○	継続	
社有車使用抑制（公共機関利用、ネット購入等）			○	継続	
エコドライブ講習への従業員派遣			○	継続	
一般廃棄物排出量の削減					
生産金額当たり原単位	0.26	0.48	×	継続	排出量が増加しているが、一般廃棄物は殆どが有価買取となっているため、収益化されている。排出の増加分は産廃が一般廃棄物となり、リサイクル化が進行しているためである。
裏紙利用による廃棄物発生抑制			○	継続	
レアメタル等分別徹底によるリサイクル化推進			○	継続	
産業廃棄物排出量の削減					
生産金額当たり原単位	0.73	0.58	○	継続	産業廃棄物を廃棄する前の段階で各自産廃物の軽量化の改善を行った。また、分別・混合を見直し極力リサイクル化出来る方法で処分を行った。
産業廃棄物処分依頼方法の改善（リサイクル化）			○	継続	
産業廃棄物排出重量の軽量化			○	継続	
水道水使用量の削減					
生産金額当たり原単位	0.0123	0.0136	×	継続	総使用量では削減されているが、原単位は増加している。コロナ禍による生産調整も影響している。研削液の供給方法を集中槽から個別タンクへ完全に移行となり、研磨作業での使用量は減少している。新しい取組みを次年度以降検討する。
研削液供給タンクの個別タンク化			○	継続	
節水表示の取付と節水徹底			○	継続	
節水コマ取付による流量節水			○	継続	
化学物質使用量の削減					
生産金額当たり原単位	0	0	-	継続	PRTR法対象物質は工場内で使用していないため、化学物質使用量の使用量はゼロとなっている。新規導入品については、PRTR法、RoHS指令、安全衛生法等々を考慮。継続。
PRTR法に該当する製品の切換え不使用			○	継続	
新規購入品の製品データ確認による対象物使用回避			○	継続	
不良率の削減					
不良集計と分析	0.0046	0.0049	×	継続	時間をかけて教育方法を確立すること。
グリーン購入比率の向上					
グリーン購入対象製品への積極的な切換え			○	都度実施	新規購入品の製品データ確認及び既存使用品のグリーン購入対象品への切換えを順次実施。
取引先グリーン調達基準への対応			○	都度実施	
社会貢献					
地域の環境保全活動への参加（年1回）			○	継続	環境保全委員による会社周辺清掃を春に実施。社会貢献活動は年2回献血協力を行っている。
ボランティア活動、社会貢献活動への参加			○	継続	
環境配慮型事業活動①ゼロエミッション推進					
廃アルカリ液の再利用装置の導入検討			○	継続	最終処分量の占める割合が年々減少傾向に有る。ゼロエミッションを進め、捨てる事の無い環境配慮型の事業展開を更に進める。
レアメタル鋼材・廃棄工具の分別リサイクル化			○	継続	
廃棄物リサイクル率のアップ			○	継続	
環境配慮型事業活動②SDGsの実践					
社会課題への積極的な取組み検討と社内問題改善			×	継続	SDGsの社内展開を今後進めて行く。今年度は代表者より意志表明があった。次年度以降具体的な取組みを行う。
ターゲット9「産業と技術革新の基盤づくり」取組			○	継続	
代表者によるSDGs推進意志表明			○	継続	

※「灯油、LPG使用による二酸化炭素排出量削減」は、全廃する予定のため記載なし。

7. 次年度の環境経営計画

2021年度の環境経営計画	取組内容						
電力の二酸化炭素排出量削減	環境目標	8.40					
空調温度の適正化（冷暖房26℃）	空調温度の適正化（冷房暖房26℃）						
デマンド警報時の電力遮断等抑制	ピークカットの行動の実施						
こまめな節電と消灯	不在時の消灯徹底。待機電力の削減						
エアコン、集塵機、機械装置のフィルタ定期清掃	定期点検の実施						
設備機械、OA機器等の待機時節電	設定の洗い出しと待機省エネ設定						
クール、ウォームビズの実行	空調に頼らない衣服での調節						
電力以外の二酸化炭素排出量削減	環境目標	ガソリン	0.0048	灯油	0	LPG	0
エコドライブの実践とステッカー取付	タイヤ圧定期チェック・エコドライブの実践						
走行距離記録	用務の見直しと燃費向上検討						
社有車使用抑制	公共機関利用、ネット購入等						
エコドライブ講習への従業員派遣と実施	急ブレーキ、急発進、他注意ステッカー作成						
一般廃棄物排出量の削減	環境目標	0.27					
裏紙利用による廃棄物発生抑制	裏紙利用の徹底						
レアメタル等分別徹底によるリサイクル化推進	使用済みレアメタルの再資源化推進						
産業廃棄物排出量の削減	環境目標	0.72					
産業廃棄物処分依頼方法の改善（分別、保管方法）	最終処分量の削減とリサイクル化（ゼロエミッション）						
産業廃棄物排出重量の軽量化	廃棄物の軽量化改善と排出量圧縮						
水道水使用量の削減	環境目標	0.0122					
廃アルカリ水の再処理装置導入	廃アルカリ水の再生再利用						
節水表示の取付と節水徹底	節水表示更新と水道不具合の修繕						
節水コマ取付による流量節水	節水コマの更新						
化学物質使用量の削減	環境目標	0.00					
PRTR法に該当する製品の切換え不使用	（現状では対象物無し。該当品は随時対応。）						
新規購入品の製品データ確認による対象物使用回避	SDS管理と環境配慮品の選択						
不良率の削減	環境目標	0.0046					
製品不良発生の抑制	不良集計と分析						
グリーン購入比率の向上	環境目標	年1件以上					
グリーン購入対象製品への積極的な切換え	年1件以上切換えを実施						
取引先グリーン調達基準への対応	随時対応。各社調達基準を厳守。						
社会貢献	環境目標	年1件以上					
地域の環境保全活動への参加（年1回）	安全環境保全委員会委員による活動参加						
ボランティア活動、社会貢献活動への参加	自主的・積極的に活動への参加（献血等）						
環境配慮型事業活動①ゼロエミッション推進	環境目標	活動継続					
廃アルカリ液の再利用装置の導入・稼働開始	研削液廃液処理に関する一連作業の改善						
レアメタル鋼材・廃棄工具の分別リサイクル化	分別回収の徹底						
廃棄物リサイクル率のアップ	砥石屑のリサイクル検討						
環境配慮型事業活動②SDGsの実践	環境目標	活動継続					
社会課題への積極的な取組み検討と社内問題改善	エコ活動とSDGs活動の関連付け啓発活動						
ターゲット9「産業と技術革新の基盤づくり」取組	多能工推進、作業改善、小集団活動						
代表者によるSDGs推進意志表明	SDGs活用による企業経営の実践						

8. 環境関連法規等の遵守状況の確認

■ 8-1-1. 環境関連法規

適用法規	対象施設・項目	適用される要求事項（事業活動）
環境基本法	環境目標の達成状況	環境負荷軽減、環境保全、国・地方公共団体への協力
環境影響評価法	加工施設	対象設備新設・変更等に評価書提出
地球温暖化対策の推進に関する法律（温対法）	環境目標の達成状況	温室効果ガスの排出抑制、国・地方公共団体への施策協力

■ 8-1-2. 環境関連法規

適用法規	対象施設・項目	適用される要求事項（事業活動）
特定工場における公害防止組織の整備に関する法律	排水処理設備 コンプレッサー プレス機械	排水処理・騒音発生・振動発生施設の届出、水質2種公害防止管理者2名選出
環境保全のための意欲の増進及び環境教育の推進に関する法律	環境教育	職場の環境教育、安全衛生委員会・EA21委員会での啓蒙活動
環境情報の提供の促進等による特定事業者等の環境に配慮した事業活動の促進に関する法律		事業活動に係る環境配慮等状況に関する情報提供・利用
大気汚染防止法	塗装施設 ショットブラスト	特定施設の届出、排出基準の遵守、年2回の作業環境測定実施、
フロン排出抑制法	業務用空調機	フロン類の大気放出禁止、業務用空調機の機器点検記録保存、算定漏えい量報告
水質汚濁防止法（水濁法）	排水処理施設 有害物質貯蔵庫	特定施設の届出、公共用水域への排水・地下浸透等の排水基準の遵守、有害物質貯蔵施設の点検、排出濃度の測定・記録
下水道法	排水処理施設	公共下水道の使用開始、水量・水質変更届、水質基準の遵守、除外施設の設置、水質測定
悪臭防止法	トルエン	規制基準の遵守
騒音規制法	コンプレッサー 排風機 局所排気装置	指定地域に特定施設を設置した場合の届出と規制基準の遵守
振動規制法	コンプレッサー	指定地域に特定施設を設置した場合の届出と規制基準の遵守
循環型社会形成推進基本法	廃棄物全般	廃棄物の適正な循環的利用または処分
廃棄物の処理及び清掃に関する法律（廃棄物処理法）	一般廃棄物 産業廃棄物 水銀使用製品産業廃棄物 廃プラ・廃油 廃酸・廃ガラス等	廃棄物の抑制、適正処理（保管・運搬・処理委託基準の遵守）、生活環境の清潔、公衆衛生の向上、（水銀）特別管理産業廃棄物処分業者への委託等
資源の有効な利用の促進に関する法律（リサイクル法）	パソコン	使用済物品および副産物の発生抑制、再資源化・再利用等の推進
容器包装に係る分別収集及び再商品化の促進等に関する法律（容器リサイクル法）	容器包装	分別排出の協力
特定家庭用機器再商品化法（家電リサイクル法）	エアコン、冷蔵庫、TV等	特定家庭用機器廃棄物排出の際のリサイクル料の負担
国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律（グリーン購入法）	環境配慮型物品	調達における環境物品等の選択・調達の推進
使用済自動車の再資源化等に関する法律	営業車・トラック	所有者の使用済自動車再資源化等預託金負担、自動車の廃棄・使用済自動車の引渡し義務
化学物質の審査及び製造等の規制に関する法律	コバルト等	特定化学物質の製造・輸入・使用等の規制基準の遵守
特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律（PRT法）	コバルト等	化学物質の自主的管理改善、化学物質排出移動量届出、化学物質管理目標達成状況報告
有害物質を含有する家庭用品の規制に関する法律 毒物及び劇物取締法 工場立地法	有害物質含有用品 塩酸・硝酸等 工場・社屋	新製品導入時に独自の特化物調査を実施 試験の用に使用する以外の用途が発生した場合 敷地・建築面積の届出、変更届
都市緑地保全法	工場・社屋	保全地域での建築・造成・埋立・伐採等は届出
消防法	トルエン シンナー	火災報知器設置、消防用設備点検・報告、消防訓練の計画・実地報告書提出、危険物取扱（少量危険物）の表示、指定可燃物の届出

■ 8-1-3. 環境関連法規

適用法規	対象施設・項目	適用される要求事項（事業活動）
電波法	高周波加熱炉	高周波設備の設置、使用申請及び周辺への電波障害防止措置
道路車両運送法	営業車	自動車の保安基準に適合するよう維持、日常点検、定期点検の実施と記録
道路交通法	営業車	道路交通法違反の防止、安全運転管理者の選任・届出（11人以上乗用車1台以上）

■ 8-2. 違反・訴訟等

関係法規遵守チェックの結果、環境関連法規への違反・訴訟はありませんでした。
また関係当局よりの違反等指摘は過去3年間ありませんでした。

9. 代表者による全体の評価と見直し結果

見直し実施日	2020年10月15日 (<input checked="" type="checkbox"/> 定期見直し <input type="checkbox"/> 臨時見直し)		
見直し対象期間	2019年10月1日～2020年9月30日		
代表者	東北工場 工場長 宇那田 裕		
見直しに必要な情報	①環境関連法規の順守状況 (環境関連法規等取りまとめ表兼遵守確認評価表による) ②環境経営目標の達成状況及び環境経営計画の実施状況、その評価結果(環境経営計画兼実績書による) ③適用範囲、実施体制 ④問題点の是正処置及び予防処置の結果 (是正/予防処置報告書による) ⑤外部からの環境に関する苦情等の受付結果 (外部コミュニケーション記録による) ⑥その他 (法規制の動向や取引先からの「グリーン調達」の情報等)		
代表者による評価 経営的視点	【環境経営システムが有効に機能しているか】 (①、③、④、⑤等を踏まえて評価)		
	環境経営システムは現在のところ有効に機能している。 法規制の順守状況に問題はなく、外部からの苦情も発生していない。 担当者任せにしている社員もまだいるので、各人が自分の役割を理解して取り組む必要がある。		
	【環境経営への取り組みが適切に実施されているか】 (②等を踏まえて評価)		
	目標項目	目標達成状況	経営計画実施状況 目標・経営計画実施状況の評価 (達成の場合：目標設定の方法や取り組み方法の問題点、次年度の方向性 未達の場合：原因の明確化、次年度の目標や対応策)
	CO2排出量の削減	×	○ コロナ禍により生産が停滞。雇用調整の実施や緊急の顧客対応など作業効率が前年度より低下した。また、猛暑・厳冬の影響も有り、目標は達成されなかった。
	廃棄物排出量の削減	○	○ 産業廃棄物の総排出量はかなり削減され、リサイクル化が一層進んでいる。最終処分量も減少傾向に有り、収益化も出てきている。継続。
水使用量の削減	×	○ 生活用水の節約は日々行われている。また、目標は未達であるものの総使用量は大幅に削減されている。水処理装置導入に期待。	
化学物質使用量の削減	○	○ PFR適用品の新規導入も無く、SDS等製品情報も把握されている。取引先の環境基準にも対応。引き続き維持管理を徹底。	
不良率の削減	×	○ 不良件数が増加している。思い込みや慣れによる不良の発生が多い。不良内容を十分に解析し歯止め策を都度実施し、不良を撲滅すること。	
代表者による見直し	【環境経営方針】 変更の必要性： <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無		
	ガイドライン2017年度版に合わせ、2018年10月1日に改定済。		
	【環境経営目標及び環境経営計画】 変更の必要性： <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無		
	現在の環境経営目標及び環境経営計画を維持する。		
	【実施体制】 変更の必要性： <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無		
現在の実施体制を維持する。			
変更の必要性の有無・変更が必要な具体的な指示事項	【環境経営システム】 変更の必要性： <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無		
	今期の環境経営システムの見直しは行わないが、不良率が改善しなければ不良率の削減を重点項目としてシステムの変更を考慮する。		
	【総括】 ・環境経営目標の未達内容については早期に具体的な対応策を立案し、次年度は達成すること。 ・日頃の改善活動においては、SDGsを活用した長期的な視点で社会のニーズを重視した事業展開になることを意識して取り組むこと。 ・今年度は不良品加工にかかってしまった時間(無駄な時間)の把握に終わってしまったが、次年度は細かく調査し、不良削減がどの費用改善に繋がるかを割り出すこと。		

注) ①是正が必要な場合は、臨時に見直しを行うこと。

②事業年度が終了したら、速やかに終了事業年度(登録審査の場合は登録の運用期間)の見直しをすること

③事業内容の変更や重大な事故・不適合が生じた場合等の時は、臨時の見直しをすること。